

ゴッヤンの絵に「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」という名の作品があります。彼は神学校の教授から 我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか という神の御教えを学びます。しかし彼は生涯、現実の人生のなかでこの3つのことについて悩むこととなります。では、あなた自身はどうでしょう。この絵のタイトルとなっている問いに答えることができますか。私たちがこのようなことを考えるときは大抵自分の状況が悪くなり、つらくなっているときではないでしょうか。今、あなたは人生を無意味に感じていませんか。何のために生きているか分かっていますか。しなければいけないことがわかっていても無意味なことをしてしまい大切なことができなくなっていますか。無駄なものに気を取られていては大切なものを失ってしまいます。もし、同じ失敗を繰り返しているならば、「聞き従う」ことができていないのかもしれないかもしれません。私たちは神の声に聞き従わなければなりません。同じ失敗を繰り返さないようにしなければなりません。ヨハネ8：3-12ではパリサイ人と姦淫の現場でとらえられた女、イエス様とのやりとりがでてきます。この女性はルカの福音書にでてくる多く赦されたから多く愛した女性ともいわれています。イエス様は彼女に「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」と言われました。そこで彼女は愛する人生を歩む人へと変えられました。愛するとは命令に聞き従うということです。彼女はイエス様の言われたことに聞き従い同じ罪(失敗)を二度と繰り返さなかったのです。私たちは他者と生活するときいろいろな問題にぶつかりますが、もしそのとき神様の声に聞き自らを見つめることができれば自分自身の外と内の違いに気づき自分の本当の姿がどのようなものか知ることができます。突き詰めていくと人は人のために生きることを求めていることに気づきます。もしすべての人々がこのことに気づくことができれば、この地は平和な世界となっているでしょう。しかし、それができるようになるには、人生の生き方を示し導いてくれる人が必要です。そうであれば姦淫の現場でとらえられた女がイエス様に示されたように、私たちもその人の存在によって同じ失敗は繰り返さない心に決めることができるのです。しかし私たちの目線は自らを導いてくれるものを探さず、いつも比較対象で物事を判断してしまいます。神様に造られた私たちは人と競争したり良く見られようとしたり比較したりする必要はありません。それは無意味なことです。私たちのためにイエス様はこの地を裁くためではなく、赦し癒すために来られました。あなたは今、旧約聖書の人たちが『みな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った』(イザヤ53：6)とあるように神様に背いて歩んではいませんか。繰り返さないために次のことを実践して行きましょう。①「自分勝手に捨てる」聖書の中にゼデキヤという人物が出てきます。彼は預言者エレミヤをとおして語られた神の声に耳を傾けず大切なことがあるのに肉の欲に負け正しい道を歩むことができませんでした。神様は最後まで聞き従うチャンスを与えました。でもゼデキヤは聞き従うことができず、悲惨な最期を遂げてしまいました。あなたは自分の事だけを考えていませんか。聞き従わないと周りの環境に悪い変化が起こってきます。あなたはどうですか。聞き従うために自己中心、自分勝手に捨てましょう。②「自己義を捨てる」自己義とは自分が正しいと思う心のことです。いつも自分の考えで物事を判断していませんか。私たちは自分自身でなく、自分の信じている方、神様が伝えてくれた正しいことだけを伝えていかなければなりません。自分の罪や失敗に対して向き合きましょう。もし、なにが正しいことかどうかが判らなければ実を見て判断しましょう。あなたが聖書にある正しいことをしているならば、必ずあなたの周りは良い環境になっており、良い結果を生んでいるのです。自分が正しいと思っている人は決して変わることができません。相手が間違っていると決めつけ、相手を裁くようになるからです。それは愚か者のすることです。自分の常識によって話をするのはもう止めましょう。聖書に照らし合わせて正しいことを判断していきましょう。③「忠告を聞く」箴言12:15に「愚か者は自分の道を正しいと思う。しかし知恵のある者は忠告を聞き入れる。」とあります。神様はあなたが正しく歩むためにさまざまな角度からあなたに語りかけてくださっています。あなたは忠告してくれる相手やその人の態度によって聞き入れることができたりできなかったりしていませんか。正しいことを言う人、忠告してくれる人は宝です。人を見ないでください。その内容が大切なことかどうか御言葉で判断してください。大切なことなら聞き従いましょう。忠告を聞き入れれば、正しい行いができるようになります。あなたにとって必要な言葉はいつでもどこで誰から語られるかわかりません。いつも大事なことに心を向け、あなたの計画に向かって歩いていきましょう。最後に、申命記30章では命をかけて守りなさいと言われた神様からのメッセージが書かれています。どうか神様からの忠告を軽んじないでください。大切なことを忘れないでください。あなたのために命をかけてくれた方がいるのです。神様がせよと言われていることを行いましょう。今、決断しましょう。聞き従うことはいけにえに勝ります。心をかたくなにすることなく、自分たちに与えられた計画を、正しい道を歩いていきましょう。(要約者：金光 瞳)